

第5学年3組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時

- 1 主題名 偏見、差別を許さない態度
- 2 ねらい 身近な偏見や差別に立ち向かっていく難しさや大切さについて理解し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養う。

教材名 「あなたも同じ…」 （出典：「彩の国の道徳」（高学年）『夢にむかって』県教委）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目〔公平、公正、社会主義〕「誰に対しても差別や偏見を持つことなく公平、公正な態度で接し、正義の実現に努めること」をねらいとしている。これは、第1学年及び第2学年の内容項目〔公平、公正、社会主義〕「自分の好き嫌いとらわれないで接すること」、第3学年、第4学年の内容項目〔公平、公正、社会主義〕「誰に対しても分け隔てをせず、公平、公正な態度で接すること」を受けたものである。そして、中学校の内容項目〔公平、公正、社会主義〕「正義と公平さを重んじ、だれに対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」へ発展していく。

「公正、公平」とは、全ての物事に対して、同じように接したり、判断や行動が偏っていなかったりすることを示し、「善いことは善い」、「悪いことは悪い」と正しく判断し、それに基づいて行動することである。これは、差別や偏見のない社会を形成するにあたり、各個人が身に着けておくべきことだといえるだろう。

しかしながら、人間はだれしも、自分とは違う考え方を持っていたり、違う立場にいたりする他者に対して、偏った見方をしてしまうことがある。また、自己の利益や自己防衛を後回しにし、他者を思いやることを優先することは容易でない。このような人間的な弱さを乗り越えて、公正、公平な社会を形成するための心情を育むことが必要である。そのうえで、他者に対する思いやりの心や、自他の不公正を認めない断固とした姿勢を持ち、社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくしていくと行動を起こすことが大切である。

（2）これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、お互いの良さを認め合って、助け合いながら活動することができる。友人関係では、特定のグループに固執することなく、男女分け隔てなく接することができる児童が多い。また、本学級では、帰りの会で「今日の MVP」と題し、その日に活躍した児童や、誰かを助けてくれた児童を紹介する時間を設けている。その時間では、特定の児童だけでなく多くの児童が MVP の児童に対して称賛の気持ちや感謝の気持ちを述べている。しかし、自分の考えが正しいということが分かっていても、友達の言うことを優先してしまったり、多数の意見に流されてしまったりする場面もみられる。仲の良い友達に対しては積極的に手助けができるが、関わりの少ない児童に対しては消極的になってしまう児童もおり、公正、公平に接することについて、個人差があるのが現状である。また、本

校では2ヵ月に一度、児童が安心して学校生活を送れるようにすることを目的に「思いやりアンケート」を実施している。このアンケートでは、「冷やかされたりからかわれたりする」、「わざとぶつかられたり、たたかれたりけられたりする」と答えた児童が数名おり、他人が嫌がる行動をする児童が学級にいたことが明らかになった。こうした状況を踏まえ、2学期の初めにいじめに関するアンケートを行った。質問項目と結果は以下に示した通りである。

＜実施日 令和〇年〇月〇日 調査人数 31名＞

- ① いじめとは、具体的にどのようなことだと思いますか。(自由記述、複数回答可)
- ・悪口を言うこと 10
 - ・暴力をふるうこと 10
 - ・仲間外れにすること 9
 - ・人が嫌がることをすること 9
 - ・複数の人が、1人に対して悪口をいったり、いたずらや暴力をしたりすること 4
 - ・ものを隠すこと 4
 - ・ものを奪うこと 2
 - ・心を傷つけること 2
 - ・無視をすること
 - ・公平ではないこと
 - ・汚い言葉遣い
 - ・遊びにいれてもらえない
 - ・その子としゃべらない
 - ・差別すること
- ② いじめについて、あなたは どう 思いますか。(自由記述、複数回答可)
- ・ひどいこと 11
 - ・やってはいけないこと 7
 - ・なくしたいこと 4
 - ・なぜ人をいじめるとかわからない 3
 - ・やめてほしいこと 3
 - ・いじめられている人がかわいそう 2
 - ・悲しいこと
 - ・許せないこと
 - ・いじめられた人は傷ついて毎日悲しい思いをしているのでやめてほしい
 - ・けんかよりも大きいこと
 - ・いじめをやる人がいなくなってほしい
 - ・みんなで協力しあわないとダメなこと
 - ・いじめをして何が楽しいのかわからない
 - ・いじめられている人をかばったら自分が標的になるから見て見ぬふりをしてしまう
 - ・いじめられている人はいじめられていることをなぜ隠すのだろうと思う
 - ・自分はやらない
 - ・残念
- ③ 今まで他の人がいじめられているのを見たり聞いたりしたことがありますか。(選択)
- はい 15
- いいえ 16
- ③-2 その時、あなたは どう しましたか。(自由記述、複数回答可)
- ・先生に相談した 3
 - ・見て見ぬふりをした 3
 - ・詳しく聞いた 2
 - ・どう接すればいいかわからず、あまり気にしなかった
 - ・いじめられている子に声をかけた
 - ・相談にはのったけれど、どうにもしてあげられなかった
 - ・自分がいじめられたらいやだから何もなかった
 - ・いじめられている子の手をひっぱって他の場所に連れて行った

④ あなたは、日々クラスの友達に対して公平に接していますか。(選択)

はい 25 ・ いいえ 6

④-2 例えばどのような場面で公平に接していませんか。

- ・あまり話をしない子とは、仲良くしている子よりもなかなか接しない
- ・つい悪口をいってしまう ・ 様々な場面で
- ・仲が良い子とはグループで一緒になるけれど、嫌いな子がいるとさける

アンケートの結果から分かる本学級の児童のいじめに対する意識は以下の通りである。

問1では、いじめとはどういったことかについての児童の認識を調査した。多くの児童が「悪口を言うこと」「暴力をすること」「仲間外れにすること」など、具体的にどのようなことがいじめなのかが考えられていた。しかし、中には具体的にどのようなことがいじめなのかが考えられていない児童もあり、再確認させる必要がある。また、いじめがあると知っているにも関わらず傍観することも「いじめ」と同等の行為だという意見がアンケートでは出なかったので、今回の教材の主人公の行為について確認する必要がある。

問2では、いじめに対する児童の気持ちを調査した。多くの児童はいじめに対して「ひどいこと」「やっつけないこと」「なくしたいこと」といったようなマイナスのイメージをアンケートに記入していた。また、「いじめられる人がかわいそう」というようにいじめの被害者を思いやる意見や、「なぜいじめをするのかわからない」というようにいじめを強く否定する意見もみられた。本時では、そういった児童のイメージを生かし、導入段階で、いじめは絶対に許されないこと、教材の前半部分で、いじめられている明奈に対して声をかけている主人公の気持ちに共感することにつなげたい。

問3では、いじめを見たり、聞いたりしたことがあるかどうかと、その時にした行動について調査した。約半数の児童が今までにいじめを見たことや聞いたことがあると答えており、その時の行動は、「先生に相談した」「いじめられている子に声をかけ、相談を受けた」「何もしなかった(見て見ぬふりをした)」という3パターンに分けられた。その中で、声をかけたり、先生に相談ができた児童がいるということと共に、何もできなかつたという意見を取り上げ、いじめの存在を知った時に行動することの難しさを考えさせ、主発問の場面における主人公の行動の重要性について考えるきっかけにしたい。

問4では、友達に対して公平に接しているか調査した。約2割の児童が「公平に接していない」と回答しており、「あまり仲が良くない友達に対しては対応をきびしくしてしまう」、「そもそもあまり関わらない」といったことが理由として挙げられた。本授業では、仲の良い、悪いにかかわらず公平に接しなければならないことに気づかせたい。

以上の調査結果から、児童はいじめとは具体的にどういうものかについて、ある程度自分の考えを持っており、いじめに対してマイナスのイメージを持っているが、実際にいじめを見たり聞いたりしたときにどのように行動すべきかについて正しく考えられている児童は少ない。そこで、本時の学習では、教材の「私」(主人公)の気持ちに共感させながら、明奈に対してとった行動から「私」の気持ちの変容について考えさせたい。また、いじめのない友達関係、さらに良い学級を作るためにはどのような気持ちが必要か考えさせたい。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、自分の体育帽子がかくされたこと（いじめにあったこと）をきっかけに、いじめられている明奈に声をかけることをやめた「私」が、明奈に「あなたも郁美さんたち（いじめの加害者）と同じよ。」と言われたことで思い直し、クラスみんなに明奈のいじめについての自分の思いを伝えるという内容である。

高学年になると、固定的な友人関係が形成される中で上下関係が生まれ、友達に同調せざるを得ず、本来の自分の考えの通りに行動できない状況になることがある。この教材はこのような高学年の特徴をとらえ、クラスの中で日常的に起こりうるいじめを題材にしたものであり、児童は、この状況を自分事として捉え、登場人物の気持ちに共感しながら、公正、公平な態度をとる難しさや大切さについて考えやすい内容となっている。

そこで、本教材から、児童に考えさせたい視点を以下の通りとする。

○＜明奈のもとに行かなくなったことで、自分のものがなくななくなった「私」の心情＞

郁美たちにいじめられていた明奈を気遣い、積極的に声をかけていた「私」だが、ある日郁美たちに自分の物を隠されたことをきっかけに、明奈のもとに行くことをやめてしまう。明奈に声をかけなかったことによって自分の持ち物がなくならずにすむようになった主人公の「ほっとしている」気持ち、「このままじゃいけない」という気持ちについて考えることを通して、相手のことを思いやって行動することが大切なことだとはわかっている、自己の利益や保身を優先してしまう人間的な弱さについて、「私」の気持ちに共感させながら考えさせたい。

○＜「私」が明奈から「あなたも（郁美たちと）同じ」という見方をされた時に考えたこと＞

いじめられている明奈に対して声をかけていた明奈が「あなたも同じ」と言われたことに関して、「私」が郁美たちと“同じ”であるという考え方と、郁美たちとは“違う”という考え方を出し合い、この言葉について多面的に考える。そこでいじめの傍観者であることは、加害者と同じであるということや、いじめをとめようと行動することは簡単でないことを、十分に考えさせる。

○＜またいじめられてしまう可能性がある中で自分の思いを伝えた「私」の心情＞

「私」がどうして自分の思いを伝えられたのかを考えることを通して、いじめをなくすために行動するためにはどんな心や考え方が必要なのか考えさせる。

以上の視点で考える活動を通して、人間的な弱さを乗り越えていじめをなくすために行動しようとする心や態度を身につけさせたい。

4 研究協議会における視点の本授業での工夫

(1)「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための工夫

- ・展開中間部で、明奈に「あなたも郁美さんたちと同じよ」と言われた主人公の気持ちが「同じかもしれない」と思う気持ちと「違う、同じじゃない」と思う気持ちのどちらが強い仲間と考える場面を設定し、互いの意見を認め合うとともに、根拠を伝えあい、道徳的価値を深める活動を行う。

(2)学習活動に着目した評価の工夫

- ・展開後段で主人公の気持ちについて、終末で本時の授業を通して自分が考えたことをワークシートに記入することで、自分の意見や考えを表出させ、道徳的価値の深まり、教材や仲間との交流を通した振り返りを評価できるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価の視点
導入 5分	<p>1 いじめに関するアンケートの結果について知る。</p> <p>○2学期の初めに皆さんに答えてもらったアンケートです。この結果を見て、どのようなことがわかるか考えてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見たり聞いたりしたことがある人がたくさんいる。 ・いじめがあると知っていても、それをやめさせるのは難しい。 ・みんないじめはなくなってほしいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査について話し合い、いじめについて考えようとする意欲を持たせる。 ・いじめがあるのはわかっているとしてもそれをとめるのは難しいということに触れる。 ・導入では、アンケートの3問目について深く考えられるようにする。
展開 30分	<p>2 教材「あなたも同じ…」を読んで話し合う。</p> <p>(1)「私」は自分の持ち物がなくなることがなくなったのだから、少しは「ほっとしている」気持ちなのかな。それとも「このままじゃいけない」って思っている気持ちなのかな。どちらが強いと思いますか。</p> <p>(2)明奈さんに「あなたも郁美さんと同じよ。」と言われたとき、「私」は何を考えたのでしょうか。</p>	<p>「ほっとしている」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物がなくなるのはいや。 ・明奈のことも心配だけど、自分がいじめられるのはいや。 <p>「このままじゃいけない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明奈のことが心配。 ・明奈のことは解決していない。 ・明奈へのいじめは続いている。 <p>(郁美とは違う、という考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は悪口をいっていない。 ・私は物を隠していない。 ・私も郁美たちにいじめられた。 ・私は明奈に声をかけていた。 <p>(郁美と同じ、という考え)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明奈を心配する気持ちと、自分を守りたいという気持ちで揺れる「私」について考える。 ・明奈に声をかけなくなったことによって郁美たちから「私」へのいじめはなくなったことをおさえる。 ・明奈を心配する気持ちが「私」の中に残っていることをおさえる。 ・自分がいじめられたことで、明奈に声をかけることができなくなった「私」の気持ちに共感させる。 ・明奈を心配する気持ちもあるが、自分を守るために、いじめの傍観者になってしまう人間的な弱さに共感させる。 ・小グループでの話し合いを取り入れ、多くの児童が自分の考えを発表できるようにする。 ・児童の発表を「郁美と同じ」という考え、「郁美とは違う」という考えに分類して黒板に整理する。 ・明奈の言葉を聞き、自分の行動を振

	<p>(3)また自分がいじめられるかもしれないのに、なぜ「私」は自分の思いを伝えられたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめられそうになったから避けてしまった。 ・郁美さんたちに注意しなかった。 ・見て見ぬふりをしてしまった。 ・わたしは何もできなかった。 ・郁美と同じように明奈を無視してしまった。 <ul style="list-style-type: none"> ・学級をよくしたいから。 ・他の子にもクラスのいじめについて知ってほしかったから。 ・ほかの子にも見て見ぬふりをしてほしくないから。 ・友達を助けたいから。 ・自分の気持ちに正直に行動したかったから。 	<p>り返り、自分の弱さに気付いていく「私」の心情に共感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私」の行動は郁美たちとちがうとは100%言えないことに気付かせる。 ・明奈にとって、「私」と郁美たちの何が同じなのかを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・どうして「私」は人間的な弱さを乗り越えてみんなに自分の思いを伝えることができたのかを考えさせる。 ・明奈に「あなたも郁美さんたちと同じよ」と言われたときから、「私」の気持ちがどのように変化していったのか考えさせる。 <p>◎クラス全員の前で自分の思いをはっきり伝えている私の心情を考えている。(発表・ワークシート)</p>
<p>終末10分</p>	<p>3 今日の授業について振り返り、今後の生活に生かしていこうとする意欲を持たせる。</p> <p>○今日の授業を通して、学んだこと、考えたこと、感じたことをワークシートに書きましょう。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに流されずに相手のことをしっかりと考え行動することの大切さを感じた。 ・いじめをとめることは難しいけど、見て見ぬふりをしては絶対にいけない。 ・今まではいじめがあっても見て見ぬふりをしていたけれど、これからはいじめをなくすために行動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の各活動を振り返り、考えたことをワークシートに記入させる。 <p>◎周囲に流されずに公正、公平をつらぬく難しさとそれを乗り越えるために大切なことを考えている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の不正を許さず、他人を思いやって行動することの難しさと、その大切さについて考えられるようにする。

6 他の教育活動との関連

<事前指導>

- 通年 思いやりアンケート（2カ月に1回実施）
- 4月 学級経営方針を話す。学級目標を決める。（学級活動）
- 5月 宿泊学習（学校行事）
誰とでも仲良く公平に接し、全員が協力して楽しい思い出が共有できる宿泊学習にする。
- 7月 バスケットボール（体育科）
フェアプレー精神で敵味方関係なく互いを尊重しながらゲームを楽しむ。



<道徳の時間>

- 10月 教材名「あなたも同じ・・・」（本時）
身近な偏見や差別に立ち向かっていく難しさや大切さについて理解し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養う。



<事後指導>

- 11月 仲よし音楽会（学校行事）
音楽会の取り組みを通し、個人の頑張りを超え、学級、学年がまとまり、高学年として力を合わせて、正しい行動ができるようにする。
- 11月 いじめゼロキャンペーン（学級活動）
いじめをなくすために必要なことを個人、学級で考えて、他人のことを思いやって行動する。
- 11月 オリエンテーリング たてわり遊び（学校行事：たてわり活動）
異学年との交流を通して、高学年としての自覚を持つとともに、みんなの意見を聞いて、活動を進めようとする態度を育てる。
- 1月 ゴール型ゲーム（体育科）
フェアプレー精神で、自他の不正を許さず、敵味方関係なく互いを尊重しながらゲームを楽しむ。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・クラス全員の前で自分の思いをはっきり伝えている私の心情を考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・周囲に流されずに公正、公平を貫く難しさとそれを乗り越えるために大切なことを自分との関わりで考えている。

8 板書計画

あなたも同じ・・・

あなたも同じ・・・

◎私の持ち物がなくなることはなかった
「ほっとしている。」

・自分のものがなくならないほうがいい。
「このままじゃいけない」

明奈が心配。

絵①

あなたも郁美さんたちと同じよ・・・

絵②

・私は悪口をいってない
・声をかけてあげたのに
・私もいじめられた

・私も避けてしまった
・見て見ぬふりをした
・何もしなかった

◎自分の思いを伝えた私

絵③

・学級をよくしたい
・友達を助きたい
・自分の気持ちを大切にしたい
・友達に見て見ぬふりをしてほしくない

あなたも同じ・・・ ワークシート

番
名前

①明奈さんに「あなたも郁美さんたちと同じよ。」と言われたとき、「私」は何を考えたのでしょうか。

郁美さんたちとへ 同じ ・ ちがう へ

②またいじめられるかもしれないのに、なぜ「私」は自分の思いを伝えられたのでしょうか。

③今日の授業を通して、学んだこと、考えたこと、感じたことを書きましょう。